

取材日：2015年3月11日



リウマチ



奈良県

## 専門医とかかりつけ医が双方向で学び、奈良県のリウマチ医療の質向上に寄与。

### Point of View

- ① 専門医がかかりつけ医に専門知識を伝授
- ② かかりつけ医は専門医に地域のリウマチ性疾患の実態について情報提供
- ③ メディカルスタッフも加わった参加型の双方向コミュニケーションを展開

奈良県立医科大学附属病院  
リウマチセンター診療主任  
赤井 靖宏先生

公益財団法人天理よろづ相談所病院  
総合内科副部長  
石丸 裕康先生

公益財団法人天理よろづ相談所病院  
総合内科医員  
東 光久先生

医療法人宣仁会白濱医院  
院長  
白濱 彰彦先生

いけなか内科クリニック  
院長  
池中 康英先生

#### 【座談会】

奈良県立医科大学附属病院の赤井靖宏先生と公益財団法人天理よろづ相談所病院（以下、天理よろづ相談所病院）の東光久先生は、奈良県下のリウマチ医療の課題が、専門医の偏在による地域の「治療格差」と、地域における医師同士の「つながり不足」にあるとの共通認識を持ち、両者の協働のもと2014年2月に「NARA塾」と銘打った研究会を立ち上げた。参加型の双方向コミュニケーションを旨とした活気ある研究会は、2014年12月に通算4回の開催を経て、無事に初年度の活動を終えた。引きつづき開催されるセカンドステージを前に、受講した先生方も含めて座談会を実施した。

#### リウマチ診療の基本である関節痛の除外診断を学ぶ

赤井 NARA塾ファーストステージ、つまり初年度は合計4回のNARA塾を開催しました。参加者は少人数でしたが、意欲のある方ばかりで少数精鋭という言葉がふさわしい場になりました。

東 私の中には長く、「目の前の自分の患者さんはもちろん、奈良県の全リウマチ患者がより良い医療、より良い治療を享受するには、何が必要か」との問題意識がありました。

そして、幸運にも問題意識を共有する赤井先生と出会い、約1年間の準備期間の後にNARA塾の立ち上げにいたりました。



左から赤井先生、東先生、石丸先生、白濱先生、池中先生

NARA塾がまずめざしたのは、リウマチ専門医資格を持たないご開業の先生方に抗リウマチ薬を使っただけできるよう、さらには生物学的製剤の導入につながるような下地づくりをすることでした。そのためには、講義形式ではなくディスカッションが中心の“塾”であるべきだろうと考えました。

**赤井** いざ開催してみると、リウマチ医療に強い関心を持った方が想像以上にいるとわかり、うれしい驚きを覚えました。一度参加してくださった方は、ほとんどの方が複数回参加していただきました。

池中先生と白濱先生は、ともに4回すべてに参加した皆勤賞受賞者です（実際に皆勤賞を制定）。ここで、両名にNARA塾参加の経験を振り返っていただきたいと思います。まず池中先生からお願いします。

### 地域医療の担い手のひとりとしての手応えを

**池中** 膠原病を専門にしていない医師にとって、リウマチ性疾患は学ぶにあたっての「取っかかり」を見出しづらい疾患です。どう勉強していかさえわかりません。

NARA塾では最初に関節が腫れた症状について深く学びました。そして中でも私にとって最大の収穫は、除外診断です。

それまではリウマチ因子と抗CCP抗体を測り、数値が出れば即、専門医療機関へ紹介していました。しかし、学び始めてしばらくすると「ちょっと待てよ」と考えるようになった。「もしかして、自分に治療できる疾患かもしれない」という意識が芽生えたのです。

たとえば、こんな事例がありました。訪問診療をした患者さんがリウマチ性多発筋痛症とわかりました。NARA塾での学びを背景に、副腎皮質ステロイド薬を処方し投与したところ、炎症が治まりました。自身のスキル向上を実感できたとともに、93歳という高齢の患者さんに在宅のまま治療をしてさしあげられたことへの大きな喜びを得ました。地域医療の担い手のひとりとして貢献できている手応えは、えも言われぬものです。

自分自身で抗リウマチ薬を使う日も近いと予想しています。その先には、生物学的製剤の適応もあるでしょう。恐れることなく取り組んでいきたいと、モチベーションが高まっています。

**赤井** 関節痛の患者さんを診る際の心がまえに変化があったのであればNARA塾主催者としてはうれしい限りです。

**池中** 意識は、明らかに変わりました。若い女性、発熱で発疹があって関節痛。NARA塾参加以前であれば、すぐに膠原病を疑ったでしょう。しかし今は、パルボウイルス感染症の可能性もあると考え、必ずIgM型の抗体を測ります。NARA塾での学びにより、「関節痛＝リ

ウマチ性疾患」といった短絡した図式は、崩れ去りました。

**赤井** さまざまな疾患を除外していった末にリウマチ性疾患と診断するプロセスはリウマチ性疾患診療のベースとなる部分です。そのプロセスが身についたとの実感をうかがうと私たちにも非常に励みになります。

では、白濱先生、お願いします。

### 正しく検査を行えば抗リウマチ薬は使える

**白濱** 整形外科医として開業して間もない状況で、NARA塾に参加しました。

勤務医時代の私には、リウマチ性疾患を疑う症例では、すぐに「内科の先生に聞いてみましょうね」と患者さんに同意を求められる環境がありましたが、開業後はそうはいきません。

リウマチ性疾患についてもっと学ばねばとの危機感を抱いていたところで、NARA塾を知りえたのは幸運でした。

リウマチ性疾患の患者さんは長く患っている方も多く、「先生、生物学的製剤というものはどうなのですか？」と問われる機会も実際にありました。NARA塾で学んでいなかったら、きちんとした返答などできなかったでしょう。

NARA塾では、抗リウマチ薬について、タイミングを間違えずに検査を行ってれば、副作用をそれほど恐れる必要はないと学びました。生物学的製剤を望む患者さんが現れた際、東先生を念頭に「では、専門医に相談してみましょ」と対応できる環境を得られたのも大きな財産です。つまり病診連携でより良い医療を提供できるようになったのです。



赤井 白濱先生から連携のお話が出ました。NARA塾を通じた病診連携のチャンネルづくりも私たちの重要な眼目のひとつでした。

池中 NARA塾で顔の見える関係ができ、いざというときにすぐ相談できるようになったのはとてもありがたいですね。

ただ、私はまだ連携関係をフル活用しているとは言えない状況です。基幹病院の先生方の毎日の多忙さをよく知っていますので、気軽に電話するのは気が引けてしまいます。その点で言えば、メーリングリストがもっと使いやすかったらありがたかったですね。

東 NARA塾の開講と同時にメーリングリストも立ち上げたのですが、結局、うまく活用できるにはいたりませんでした。今後に向けた反省点です。

赤井 白濱先生は、連携がスムーズになったとの感想をお持ちのようですが、NARA塾受講後の病診連携に変化はありましたか？

白濱 天理よろづ相談所病院が近かったので、東先生と密な連携をとらせていただきました。患者さんが悩んでいらっしゃる場合などには、その内容を紹介状にも記入しますが、メールで東先生に事前情報をお知らせしておけます。そういう関係があるのは、とても助かります。

赤井 ところで、NARA塾の名称は、「奈良県」のNARAとNovel Academy for non-Rheumatologists in Nara toward Normal Life of RA patientsの頭文字を組み合わせたもので東先生のアイデアです。たいへんすばらしい名称を考案してくださったと感謝

しています。

池中 名称のすばらしさは見逃せない点です。とても惹きつけられる。私自身、振り返ると、違う名称であつたら興味を持たなかったかもしれません。

### メディカルスタッフ参加で より強く地域に根づく

赤井 東先生は2015年4月から特任准教授として福島県立医科大学白河総合診療アカデミーに転籍され、臨床研修プログラムディレクターを務められます。

残念ながら、NARA塾からは離れなくてはなりません。

東先生のあとは、天理よろづ相談所病院の石丸先生が引き継いでくださることになりました。

石丸 私は、最終回の4回目にだけNARA塾に参加しましたが、すばらしい学びの場だと確信しました。

地域医療連携や、そのための研究会や勉強会はこれまで、高名な先生を招聘して講演会を開き、地域全体の士気を高める内容が主流でした。

しかし、現在は、まず患者さんのQOLを重視し、患者さんが主役になる治療を展開するにはどうすべきかと考える場づくりが広がっています。

大規模病院の医師主導による知識伝達型の枠組みではなく、地域の患者さんに焦点をあて、かかりつけ医の先生方や、第一線の看護師、薬剤師の方々などといっしょに考えていける勉強の枠組みが必要ではないでしょうか。

NARA塾がファーストステージで取り組んだことは、まさにそれにあたると思うのです。

赤井 医師を対象としてスタートしたNARA塾ですが、ファーストステージ3回目からは、リウマチ性疾患に興味を持っておられる看護師の方々にオブザーバーとして参加していただきました。看護師の皆さんの発言から、看護師がいかに患者さんに近い視点からリウマチ治療を考えているかがよくわかり、メディカルスタッフの重要性をあらためて確認した次第です。

セカンドステージでは、質の高いリウマチ医療が奈良県に根づくように、メディカルスタッフにもさらに積極的に参加を募るべきだと考えています。

### セカンドステージに向け さらなる充実をめざす

赤井 本日の座談会は、NARA塾に積極的に参加いただいた池中先生、白濱先生のご出席によって、事前の



NARA塾の講議の様子

想像を超えて、実りあるものになりました。

**東** 池中先生、白濱先生から受講の動機及び受講中の感想を聞け、たいへん意義深く感じます。主催者の願いが独善的、一方的になってしまうのは避けなければなりません、それを確認しながら進める術がなかったため、お2人のお話で胸をなでおろしているところです。

**赤井** 東先生の「胸をなでおろした」には、私も同感です。

私たちは準備段階で、参加者のニーズについてかなり議論を重ねました。私たちが設定した「抗リウマチ薬から生物学的製剤への下地づくり」は本当に的を射ているのだろうか、参加者はそれを求めているのだろうか。しかし、議論を重ねても結論にいたらず、確信を持ってないまま走り始めるしかありませんでした。正直に申し上げて、初回からずっと、参加者の皆さんの顔をうかがいながらの運営でした。

ですから、2回目の開催時に初回参加者の多くが連続参加して下さったときに、確信の端緒のようなものを見出し、ほっとしたのを覚えています。

**石丸** 私は途中参加だったのがむしろ奏功し、NARA塾が一般的な研究会や勉強会とはまったく違う雰囲気を醸し出しているのにすぐ気づきました。今、アメリカの卒前教育で主流になりつつあるチュートリアル教育のかたちが形成されています。参加者には、自分で課題を見つけ出し必要なリソースを使って勉強する意欲がみなぎっていました。

そして、NARA塾の最大の特徴は、リウマチ性疾患に精通した先生方が

そうでない先生方やメディカルスタッフに知識とノウハウを伝授するだけではない点です。前者が後者に教えるのは当然ながら、前者が後者から地域の実情や他の疾患についての知識を学ぶ姿勢を持っています。ともに研鑽しようという意欲を共有する雰囲気、ほかには見られない活気を生み出しているのです。

**池中** 参加型の選択は、とても良かったと思います。ただ聞いているだけの講義では、帰宅後に復習しなければ“抜け”てしまいますが、議論した内容は復習なしでも身につくと実感しました。開業後に議論や討論の機会を失っていたという意味でも議論に参加できる時間は新鮮で貴重でした。

**白濱** ひとえに、赤井先生と東先生が作り出してくださった雰囲気が良かったのでしょう。当初はかなりドギマギしましたが、すぐに「とにかく質問したい」、「これについて発言したい」との気持ちに切り替わりました。

また、漠然とはしていましたが、次回以降のテーマ設定も示されていたので、「3回目にはこれを聞いてみよう」と準備できたのもありがたかったです。今後も、NARA塾がある限り、私は参加しつづけます。

**赤井** こういった双方向の研究会では、参加して下さった先生方が満足感を抱いて帰っていただける内容にしなければと考えています。NARA塾では、その目標はたぶん達成できたのだらうと、池中先生と白濱先生からのお話で伝わってきて、うれしく思います。

東先生が福島県に旅立たれるのはとても残念ですが、引き継いでくだ

さる石丸先生とともに、より創意工夫を凝らしてセカンドステージへ進む所存です。

池中先生や白濱先生、その他の先生にもぜひファシリテーターとしてお手伝いいただき、いっそうNARA塾を盛り上げていただきたいと思います。

**石丸** 私は、NARA塾の双方向性に大きな可能性を感じています。セカンドステージでは、たとえば次の課題設定を参加者全員で決定するような作業も盛り込み、さらに充実した内容にしていきます。

**赤井** NARA塾ファーストステージの課題を踏まえて、参加者のニーズにより合うようなセカンドステージにしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

#### 奈良県立医科大学附属病院

〒634-8522  
奈良県橿原市四条町840  
TEL : 0744-22-3051

#### 公益財団法人天理よろづ相談所病院

〒632-8552  
奈良県天理市三島町200  
TEL : 0743-63-5611

#### 医療法人宣仁会白濱医院

〒632-0078  
奈良県天理市杉本町287-1  
TEL : 0743-63-2321

#### いけなか内科クリニック

〒635-0825  
奈良県北葛城郡広陵町大字安部236-1-3  
TEL : 0745-54-1113